

- 国土交通省** (1)水害に強い人づくりの推進……………P2～P7
《内容： 防災教育・出前講座の推進》
(2)情報伝達のための環境づくりの推進
《内容： 合同ラジオにおける防災情報の発信》
《内容： 台風第14号接近時の合同説明会》
(4)内水被害軽減に向けた取組の実施
《内容： 小丸川において樹木伐採を実施》
- 宮崎地方气象台** (1)水害に強い人づくりの推進…………… P8～P9
《内容： eラーニングによる水防災教育の推進》
- 宮崎県** (4)内水被害軽減に向けた取組の実施……………P10～P11
《内容： 樹木伐採・河道掘削(防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策)》
- 高鍋町** (1)災害に強い人づくりの推進……………P12～P15
《内容： 防災士の養成について》
《内容： 自主防災組織の育成支援について》
(2)情報伝達のための環境づくり推進
《内容： 防災行政無線「戸別受信機」貸与事業》
- 木城町** (1)災害に強い人づくりの推進……………P16～P18
《内容： 総合防災マップの作成・配付》
《内容： 防災フェスの開催》
- 川南町** (2)情報伝達のための環境づくりの推進……………P19～P22
《内容： 防災啓発看板の設置(防災啓発プロジェクト)》
(3)水害に強いまち・防災拠点づくりの推進
《内容： コミュニティセンター(指定避難所)の整備》

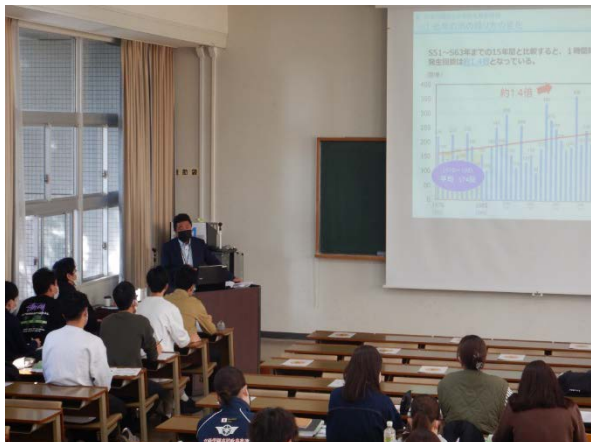
【令和4年度】施策の取組事例

国土交通省 宮崎河川国道事務所

- 取組(1) 水害に強い人づくりの推進
「防災教育・出前講座の推進」
- 取組(2) 情報伝達のための環境づくりの推進
「合同ラジオにおける防災情報の発信」
「台風第14号接近時の合同説明会」
- 取組(4) 内水被害軽減に向けた取組の実施
「小丸川において樹木伐採を実施」

宮崎河川国道事務所では、教員を目指す学生等を対象に出前講座を実施しました。

- 令和4年10月29日(土)
- 対象：宮崎国際大学
- 内容：自然災害と防災



- 令和4年10月31日(月)
- 対象：宮崎公立大学
- 内容：自然災害と防災



- 令和4年12月22日(木)
- 対象：宮崎大学
- 内容：自然災害と防災



生徒の授業感想を見ると「防災情報を確認し、把握しておきたい」というような感想が多く、防災意識が高まっていることを感じたところ。今回の講義が生徒たちの防災士資格取得に繋がることを期待。

宮崎河川国道事務所では、地域への防災教育として、MRTラジオ×エフエム宮崎の2局合同防災ラジオでマイ・タイムライン検討ツール「逃げキッド」等について発信しました。

- 令和4年9月1日(木)
- 2局合同防災ラジオ2022「命を救う三つの助け」
- 内容:マイタイムライン検討ツール「逃げキッド」について



宮崎河川国道事務所では、地域へのより一層の防災教育の普及・推進を目的に高鍋高校とJA児湯に対する防災教育や出前講座を実施しました。

令和4年10月25日(火)
相手方：高鍋高校探求科学科1年生
内 容：河川整備と防災について



令和4年10月6日(木)
相手方：JA児湯(約70名参加)
内 容：マイ・タイムライン検討ツール「逃げキット」の作成について



@小丸河畔運動公園

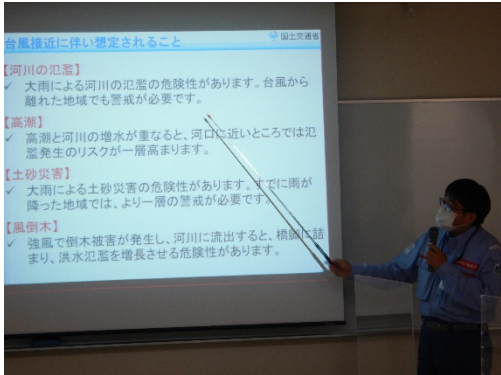
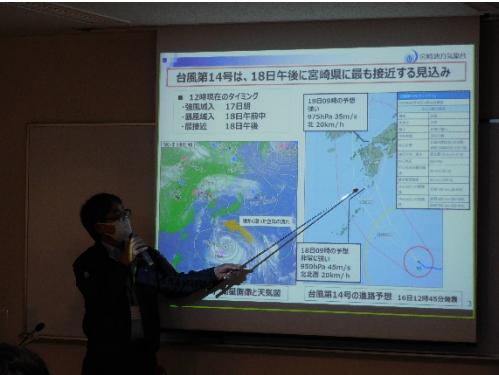
台風第14号の接近により災害発生危険度が急激に高まる可能性があるため、住民に対し早めの避難行動を呼びかけることを目的に、合同説明会を実施し、警戒レベルの説明や防災情報の取得について周知しました。



日時: 令和4年7月16日(金) 14時00分～14時30分
場所: 宮崎地方気象台 会議室(1階)

- (参加機関: 10機関21名)
- ・NHK宮崎放送局
 - ・MRT宮崎放送
 - ・テレビ宮崎
 - ・宮崎ケーブルテレビ
 - ・エフエム宮崎
 - ・宮崎サンシャインFM
 - ・宮崎日日新聞
 - ・朝日新聞
 - ・読売新聞
 - ・九州電力
 - ・宮崎ガス

- (説明要旨)
- ・台風14号は強い勢力を維持したまま宮崎県にかなり接近する予想
 - ・九州接近時に速度が遅いため大荒れの状況が長時間続く見込み。
 - ・総降水量は多いところで500mmを大きく超える雨量となるおそれ。
 - ・レベル4相当の土砂災害警戒情報発表の可能性はある。
 - ・気象状況や河川の水位など、最新の情報と取得し、適切な避難行動を呼びかけた。



小丸川において河道の維持管理として樹木伐採を実施しました。



【令和4年度】施策の取組事例

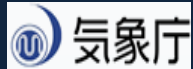
気象庁 宮崎地方気象台

- 取組(1)水害に強い人づくりの推進
「eラーニングによる水防災教育の推進」

被害の軽減、早期復旧
・復興のための対策

① eラーニングによる水防災教育の推進

○自ら判断して避難できる人材育成を目的として、学校、自治会、自主防災組織等への水防災教育の推進するため、台風・豪雨から「自らの命を自ら守る」基本的な知識ととるべき行動について、他人と接触せずに学べる教材を提供。



eラーニング教材

「大雨のときにどう逃げる」

あなたの命、あなたの大切な人の命を守るため

台風・豪雨から「自らの命は自らが守る」基本的な知識ととるべき行動を学びます

【学習の流れ】 動画教材で身につけた知識を、実習や意見交換で、いざという時に使えるようにしてゆきます

自らの命は自らが守る
基本的な知識を学ぶ

動画教材を視聴（約15分×動画5つ）

学習する5つのステップ

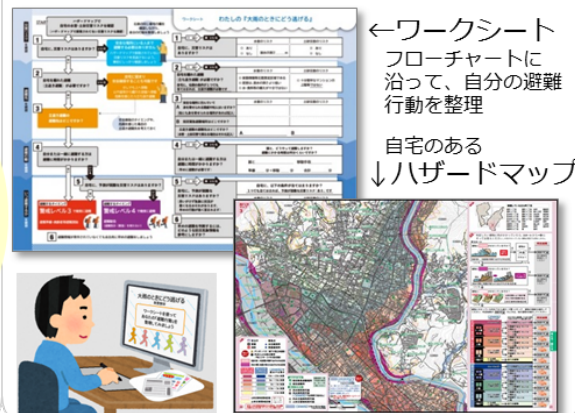
Ⅰ 避難を行うための
ポイントを理解しようⅡ あなたの家の
災害リスクを知ろう

Ⅲ 大雨の時の避難先

Ⅳ 「避難行動」を考えよう

Ⅴ あなたの避難の
タイミングを考えよう自宅の災害リスク
自分の避難行動を整理

ワークシートに記入（概ね30分）

思い込みによる誤解や
疑問・不安を解消

みんなと意見交換（概ね30～40分）

アドレス：<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/jma-el/dounigeru.html>

区分	対策内容	実施内容	実施主体	工程		
				短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	防災学習の推進	eラーニングによる水防災教育の推進	気象庁	→		

【令和4年度】施策の取組事例

宮崎県

■取組(4)内水被害軽減に向けた取組の実施

「樹木伐採・河道掘削(防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策)」

(4) 内水被害軽減に向けた取組の推進

「樹木伐採・河道掘削(防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策)」

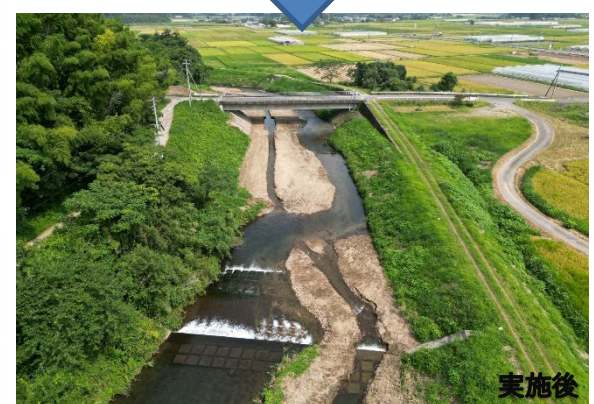
樹木繁茂や土砂堆積の流下阻害等で洪水氾濫による被害が生じるおそれのある箇所について、樹木伐採や河道掘削を実施。

- 小丸川水系 【実施河川】7河川 【事業費】約4.3億円 【樹木伐採】約8.4万 m^2 【河道掘削】約7.6万 m^3
 ○一ツ瀬川水系 【実施河川】16河川 【事業費】約27億円 【樹木伐採】約28万 m^2 【河道掘削】約73万 m^3

三財川



切原川



【令和4年度】施策の取組事例

高鍋町

■取組（1）水害に強い人づくりの推進

「防災士の養成について」

「自主防災組織の育成支援について」

■取組（2）情報伝達のための環境づくりの推進

「防災行政無線「戸別受信機」貸与事業」

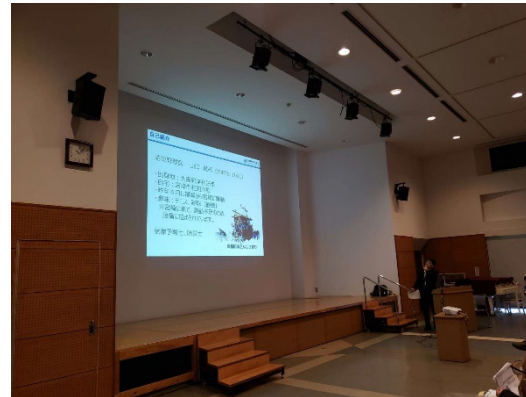
(1) 水害に強い人づくりの推進

(1)地域における防災リーダーとしても活躍が期待される防災士を育成するために、防災士養成研修の際に必要な個人負担(試験受講料3,000円+資格認証登録料5,000円+納付手数料)の補助を実施しています。

- ・令和5年3月1日現在における町内在住の防災士 …… 163名
- ・令和4年度中に補助対象受講者数 …… 10名

(2)地域における防災士の推進を図る目的で、防災士取得以降のフォローアップや高鍋町の防災に関する知識の普及などを継続的に行っていくために、これまでに町内の防災士を対象に、出水期前に希望者を募り防災士フォローアップ研修を実施しています。

- ・開催日 令和4年4月17日(日)
午後2時から(2時間程度)
- ・開催場所 高鍋町美術館 多目的ホール
- ・内容 ①防災・危機管理について
②地域防災計画について
③共助について、他
- ・参加者 59名



(1) 水害に強い人づくりの推進

自主防災組織の育成及び活性化促進のため、防災資機材整備に要する経費として40万円／団体を補助金として1団体に交付しました。

- ・令和4年度補助団体: 宮田自治公民館防災部
- ・令和5年3月1日現在での結成状況: 結成地区数 25地区／84地区

町民の防災意識の向上を図ることを目的として、防災に関する出前講座を実施しています。

・実施状況: 7回(238名が受講)

蚊口西の一婦人部 : 5月15日(11名)

商工会議所女性会 : 5月13日(16名)

岩切建設 : 6月27日(80名)

西原公民館婦人部 : 10月11日(16名)

高鍋高校1年生 : 10月13日(25名)

持田公民館 : 11月23日(30名)

東小放課後児童クラブ: 1月 6日(60名)

- ・内容: 地震・津波対策、洪水等の防災対策等について、危機管理専門員による講話

津波浸水区域や土砂災害警戒区域に指定され、かつ防災行政無線放送の屋外拡声子局からの放送が聴こえにくい状況にある地域の世帯に対し、戸別受信機を無償で貸与し、重大な自然災害に対する被害を防止することを目的とする事業です。

・令和5年3月1日現在 貸与：1,306台



【令和4年度】施策の取組事例

木城町

- 取組（1）災害に強い人づくりの推進
 - 「総合防災マップの作成・配付」
 - 「防災フェスの開催」

木城町総合防災マップの作成・配付（冊子版・web版）

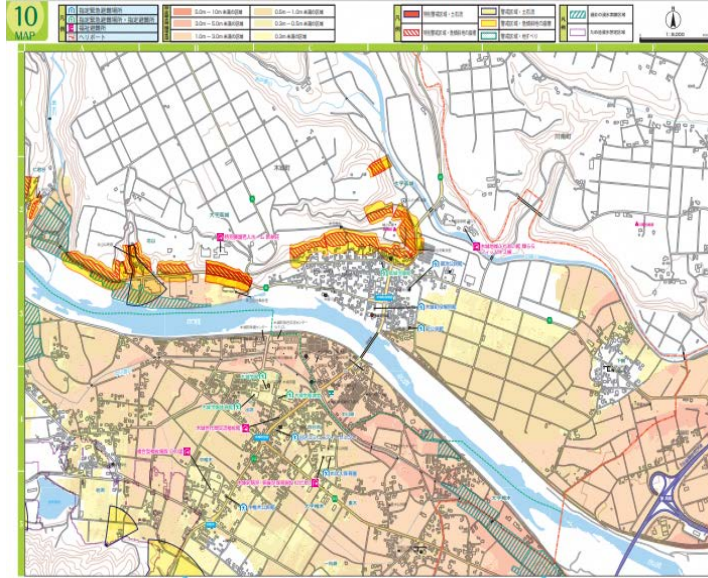
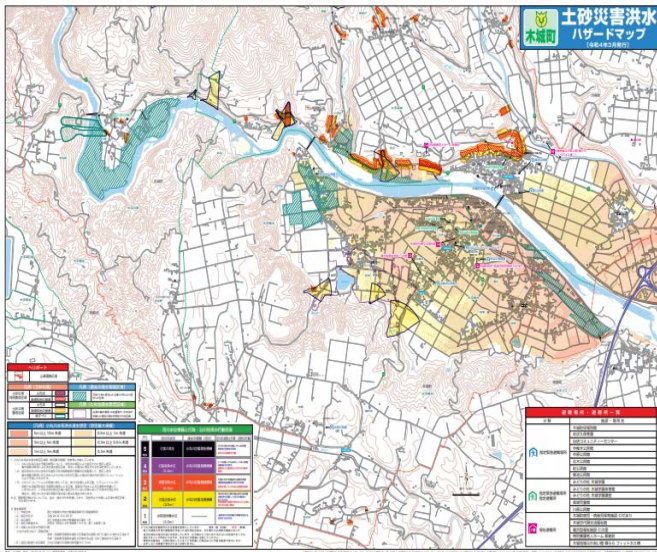
- ① 土砂災害（特別）警戒区域や浸水想定区域（想定最大規模）の掲載
- ② 詳細が確認できるB4冊子版と木城町全体を確認できるA1版を作成
- ③ 町独自調査分を含めた平成17年台風14号における浸水実績を掲載
- ④ 冊子版を活用した防災講座の開催が可能となる教材として活用可能な資料を掲載



【木城町全体を確認できるA1版：表面】

【各地区の詳細が確認可能なB4版：冊子】

【防災講座用資料ページ】



風水害・台風

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。普段から気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨情報をキャッチ！こんなときのわが家の安全対策

大雨注意報 大雨による土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想したときに発表
まずは、確実な情報が大事。その次に迅速な対応

大雨警報 大雨による重大な土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想したときに発表

大雨特別警報 台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合に発表
観測記録的短時間最大降雨量は、数年に一度程度しか発生しないような短期間の大雨を、観測し、記録したものの大きさで、昔の観測記録を参考に、観測記録の総降雨量は、1時間120mmとなっています。

雨の強さと降り方

観測基準	大雨	大雨特別警報	豪雨	特大豪雨	猛烈豪雨	異常豪雨
1時間	50mm以上	75mm以上	100mm以上	150mm以上	200mm以上	250mm以上
24時間	100mm以上	150mm以上	200mm以上	300mm以上	400mm以上	500mm以上

風の強さと吹き方

観測基準	暴風	暴風特別警報	猛烈暴風	異常猛烈暴風
10分間平均	10m/s以上	15m/s以上	20m/s以上	25m/s以上
最大瞬間	15m/s以上	20m/s以上	25m/s以上	30m/s以上

台風の大きさと強さ

観測基準	台風	暴風	暴風特別警報	猛烈暴風	異常猛烈暴風
中心気圧	1000hPa以下	995hPa以下	990hPa以下	985hPa以下	980hPa以下
中心風速	10m/s以上	15m/s以上	20m/s以上	25m/s以上	30m/s以上

集中豪雨

- ラジオやテレビなどの放送情報に注意する。
- 緊急な連絡を取り、避難所へ逃げる。
- 町や自治体関係者の指示をよく聞いておく。
- 危険な地域に入らない。入っている場合は速やかに避難する。
- 非常用食糧や飲料水の確保をラジオで確認する。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 避難所開設の情報を確認しておく。
- 家財に当たって避難所開設は、危険な場所へ移動する。

(1)水害に強い人づくりの推進

木城町防災フェスの開催

【日時】令和4年11月27日（日） 9:00~16:00

【場所】木城町総合交流センターリバリスホール・駐車場、総合運動場、コミュニティ多目的広場

【目的】様々な角度から防災に触れることで、防災意識の向上を推進する。

【内容】ホール事業・ワークショップ事業・フード事業・防災関係車両展示・防災減災対策製品の展示

※ 事業の一環として県内初となるフードイベントサポート協会との災害支援協定を締結したことで、発災時には、各避難所等において協会に加盟しているフードトラック（キッチンカー）による飲食の提供が可能となった。

【自衛隊によるカレーのふるまい】



【宮崎地方気象台による体験ブース】



【防災減災対策製品の展示】



【ホール事業】



【令和4年度】施策の取組事例

川南町

- 取組（2）情報伝達のための環境づくりの推進
「防災啓発看板の設置（防災啓発プロジェクト）」
- 取組（3）水害に強いまち・防災拠点づくりの推進
「コミュニティセンター（指定避難所）の整備」

(2) 情報伝達のための環境づくりの推進

■ 防災啓発看板の設置（防災啓発プロジェクト）

令和3年度に完成した通浜地区避難路に誘導看板を設置するに当たり、地域住民に防災に関する意識を高めてもらうために実施したプロジェクト（事業）

(1) 防災講話

東日本大震災 実体験者の講演会

講師：宮城県名取市 一般社団法人閑上の記憶 代表 長沼 俊幸 氏

7月7日（木） 対象：国光原中学校全校生徒（約150人）、地元住民

7月8日（金） 対象：通山小学校5・6年生（約70人）、地元住民



(2) 防災ワークショップ

避難対象地域の小中学生（通山小及び国光原中）を対象に防災テーマに沿ったポスターの作成



(2) 情報伝達のための環境づくりの推進

(3) 避難誘導看板設置

防災ワークショップで作成したポスターをパネルにし、誘導看板（啓発看板）として設置
看板サイズ：横7m×縦3m



(4) 防災啓発冊子作成

プロジェクトの開始から終了までの経緯をまとめた防災啓発冊子を作成（600部）

(3) 水害に強いまち・防災拠点づくりの推進

■コミュニティセンター（指定避難所）の整備

町内6か所に点在する地域コミュニティセンター（指定避難所）を順次改修し、地域に開かれた施設としての利用を図る。

(1) 山本地区コミュニティセンター（避難想定収容人数：40人）

改修費用：39,934,400円

主な改修内容・・・事務室の増設、調理室の改修、スロープ設置、手すり設置、トイレの洋式化、身障者トイレ設置



(2) 通山地区コミュニティセンター（避難想定収容人数：40人）

改修費用：27,002,020円

主な改修内容・・・事務室の増設、スロープ設置、手すり設置、トイレの洋式化、身障者トイレ設置

